

水櫛美豆久之即梳之密者凡七十四齒許點水撫整鬢也。
 真櫛末久須木久之云凡百有餘齒可以去髮垢所謂枇是也。

古者竹爲之細齒相比故曰篦後用木故字亦作枇乎本枇杷之枇俗假借用之矣。

唐櫛久之以水牛角或鯨鬚施兩端中編竹相比凡百二十四齒可以取虱蟻所謂篋是也。

插櫛久之以黃楊木象牙瑇瑁或漆塗描金其齒如水櫛婦人每插髮者也。

〔倭訓栞前編八〕くし櫛は髮に用る物ゆゑに名とす歌に別れの櫛柘の小櫛築紫櫛刺櫛などよ

めり五節にゑり櫛まき櫛から櫛まき櫛こぐしなど見えたり。

〔歷世女裝考二〕蒔繪の櫛 三ツ櫛

元服法式永祿年中物寫本櫛は三ツ一具なり中御櫛三ツ解簾細桐蒔繪也解はとかし簾はすき櫛なり

細はびん櫛なり。

〔好色一代男四〕かたみの水櫛

世之介中惜い事をしたと四邊を見れば黃楊の水櫛落ちてけり油臭きは女の手馴し紀念ぞ

是にて辻占を聞く事もがなと、岨づたひ岩の陰道を行く略下

〔雅亮裝束抄一〕五せち所のこと

ゑりぐしまきぐしかんざしをぐして五せち所ごとにをきまいるなり。

〔空穂物語菊の宴一〕后宮まろかねのくしのはこむよろひこかねのはこゆほともなによろづ

のありがたき物どもいれてよの中こにありがたき御すへひたびえりぐしさいしもとゆびおほ

宮づかへのはじめの御てうどたてまつり給

〔類聚雜要抄三五節雜事〕一理髮具略中

彫櫛二枚略中